

概要

担 当 課：環境生活部温暖化対策推進課
問い合わせ先：043-223-4561

家庭におけるCO2排出量削減や災害時における電源の確保を図るため、住宅用省エネ設備、電気自動車・充電関連設備、ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）や、リース・PPAによる太陽光発電設備の導入等に対し助成を行います。

1 住宅用設備等脱炭素化促進事業 539,000千円

県補助金を活用し、市町村が脱炭素化に向けた設備等を導入する住民の方や集合住宅の管理組合等に補助金を交付します。

[対 象 者]市町村（県補助は市町村を通じて実施）

[対象設備]

- ・エネファーム（定額10万円）
- ・蓄電池（定額7万円）
- ・窓の断熱改修（補助率1/4 上限8万円）
- ・電気自動車等 V2Hあり（定額15万円）
- ・ V2Hなし（定額10万円）
- ・ V2H充放電設備（補助率1/10 上限25万円）
- ・集合住宅向け電気自動車等充電設備
- 充電設備 住民のみ利用可（国補助の1/3または1/6 上限50万円）
- 住民以外も利用可（国補助の2/3 上限100万円）
- 住民の合意形成のための資料作成費（補助率2/3 上限10万円）

2 ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）導入促進事業 50,000千円

中小工務店でのZEH等の施工を後押しするため、県内の中小工務店が施工したZEH等の取得を対象に補助を行います。

[対 象 者]県内の中小工務店（補助金はZEH等を県内に取得する方々へ全額還元）

[対象経費]ZEH等の施工に要した経費

[補 助 額] 定額50万円または100万円

区分	補助額(定額)	上限額
G X志向型住宅	100万円	施工に要した 経費
Z E H +		
Z E H	50万円	
Z E H 0 oriented		

3 住宅用太陽光発電設備等に係るリース等導入促進事業 47,000千円

初期費用ゼロで太陽光発電設備の導入ができるリースやPPA事業への補助により、家庭における脱炭素を促進します。

[対 象 者]県で登録を行ったリース・PPA事業者

[対象設備]太陽光発電設備・蓄電池をセットで導入の場合（原則自家消費、県内の住宅への設置に限る）

[補 助 額]太陽光発電設備 7万円/kW 蓄電池 12万円/台



概要

担当課：環境生活部温暖化対策推進課
問い合わせ先：043-223-4561

本県の産業部門等におけるカーボンニュートラルに向けた取組を推進するため、省エネ設備や設備の効果的な運用を可能にするシステムの導入補助、脱炭素化に特化した相談支援などを行います。

1 業務用設備等脱炭素化促進事業 1,036,000千円

県内で事業を行う中小事業者等が、省エネ診断を受診するなどして、省エネ等に資する設備を導入する場合において、その費用の一部を助成します。

[対象者] 県内で事業を行う中小事業者等で、
「CO2C02スマート宣言事業所登録制度」に登録する者

[対象経費] ①省エネ診断の受診費用
②省エネ等に資する設備の導入費用（太陽光発電設備等は対象外）

[補助率] ①省エネ診断に基づく事業等：1/2（補助上限額：1,000万円）
②簡易自己診断に基づく事業：1/4（補助上限額：500万円）

2 中小事業者等向けスマート省エネ技術導入促進事業 20,000千円

エネルギー使用状況の見える化と設備運用の最適化を可能にし、省エネ化及びコスト削減に資するEMS（エネルギーマネジメントシステム）を導入する場合において、その費用の一部を助成します。

[対象者] 県内で事業を行う中小事業者等で、
「CO2C02スマート宣言事業所登録制度」に登録する者

[対象経費] EMSの購入・設置工事に要する経費

[補助率] 1/3（補助上限額：1,000万円）

3 中小事業者等向け脱炭素化（伴走型）相談支援事業 30,000千円

事業所における脱炭素化に向けた取組のアドバイスやエネルギーコスト削減の提案、各種補助金の案内を、対面や現地訪問により伴走型で実施するとともに、脱炭素化に関するセミナーなどを開催し、カーボンニュートラル関係全般の普及啓発を行います。

【補助対象設備の例】



蓄電池



LED照明器具



高効率空調設備



省エネ型
自然冷媒機器



概要

担 当 課：商工労働部
カーボンニュートラル推進課
問 合 せ 先：043-223-4552

洋上風力発電について、適地である太平洋沿岸地域への導入に向けて、地元の合意形成を図りながら検討を進めます。
また、洋上風力発電の導入を地域経済の活性化につなげるため、県内企業向けの風車メーカー等との勉強会の開催や、新たに洋上風力発電関連産業に関わる展示会への出展、本分野に関心のある企業の技術力などをPRするパンフレットの作成・配布などを通じて、関連産業への参入促進に向けた支援を行います。

[主な事業内容]

- ・ 導入可能性検討会議等の実施
- ・ 風車メーカー等との勉強会等の開催
- ・ 関連展示会への出展、企業紹介パンフレットの作成【新規】

〔洋上風車のイメージ〕



《風車メーカーとの勉強会のイメージ》



《展示会のイメージ》



概要

担当課：農林水産部水産局漁業資源課
問い合わせ先：043-223-3604

近年、本県沿岸岩礁域の藻場において磯焼けの範囲が急速に拡大していることから、海藻を食す魚^{しょくしょくせいぎょるい}（植食性魚類）の有効活用を促進するなど磯焼け拡大の防止に取り組みます。また、「千葉県ブルーカーボン推進協議会」を核として、漁業者や民間企業等と連携し、藻場の保全や海藻養殖などブルーカーボンに関する取組を推進します。

1 藻場食害対策及びモニタリング 2,217千円

アワビ等の主要漁場である外房海域において、磯焼けを未然に防止するため、漁業者が実施する藻場のモニタリング及び植食性魚類の駆除の取組を支援します。

2 藻場回復の取組支援 643千円

磯焼けが進行している内房海域において、漁業者が実施する海藻の胞子供給の取組等を支援します。

3 藻場消失の対策指導 1,520千円

海藻の着生状況及び植食性魚類等の生息状況などを詳細に把握して、地区の状況に応じた藻場の保全・回復対策を指導します。

4 植食性魚類の活用促進【新規】 2,000千円

植食性魚類の水揚げに対して奨励金を交付することで漁業者の水揚げを促すとともに、民間企業と連携して植食性魚類のさらなる有効活用（新商品の検討など）を図ります。

5 高水温に強い海藻の種苗試験【新規】 2,000千円

高水温に強い海藻（ホンダワラ類など）の種苗生産手法の確立に取り組みます。

6 ブルーカーボンに関する取組 8,220千円

「千葉県ブルーカーボン推進協議会」を核として、漁業者や民間企業等と連携し、藻場の保全や海藻養殖などブルーカーボンに関する取組を推進します。

〔健全な藻場〕



〔磯焼けした藻場〕



〔主な植食性魚類〕



ブダイ



アイゴ

〔海藻を食す様子〕



〔ホンダワラ類〕



〔海藻養殖〕



概要

担 当 課：環境生活部温暖化対策推進課
問い合わせ先：043-223-4561

カーボンニュートラルの実現に向けて、次世代型太陽電池として期待され、現在、日本発の技術として開発・実証が進められている「ペロブスカイト太陽電池」について、その主要な原料となるヨウ素の世界有数の生産量を誇る千葉県において、モデル事業として県有施設への率先導入を図ります。

1 次世代型太陽電池率先導入モデル事業 50,000千円

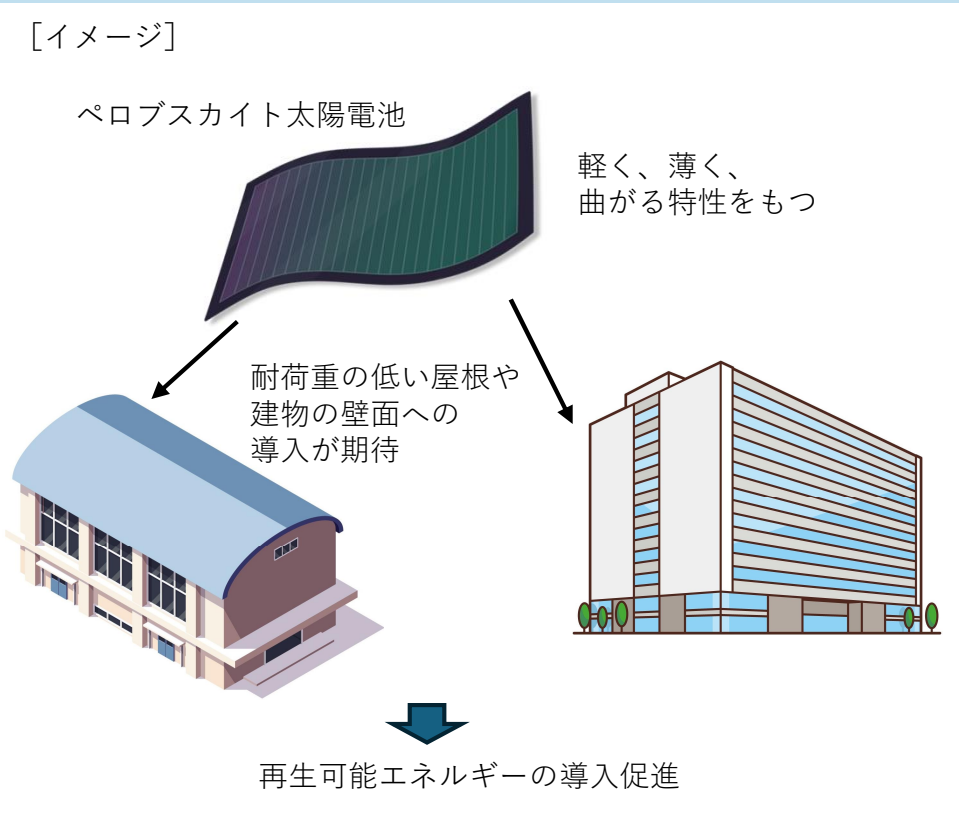
「ペロブスカイト太陽電池」を普及促進するため、県有施設への率先導入を図ります。

[設置候補]設置可能な県有施設

【参考】ペロブスカイト太陽電池について

次世代型太陽電池として軽くて薄く折り曲げられる特性をもち、従来のシリコン型の太陽光パネルでは導入が難しかった耐荷重の低い屋根や建物の壁面への導入が期待され、現在、国内企業で開発や実証が進められています。

主要な原料であるヨウ素は日本が世界第2位の産出量であり、本県は国内生産量の約8割、世界シェアの1/5程度を占めています。



概要

担 当 課：環境生活部温暖化対策推進課
問い合わせ先：043-223-4561

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、市町村には、地域特有の条件に応じた温室効果ガス排出削減のため、総合的かつ計画的な施策を推進する役割が期待されています。

本県では、令和6年度末時点で、県内の約4割の市町村において、地球温暖化対策実行計画区域施策編が未策定となっていることから、県全体の地球温暖化対策を加速させるため、県内市町村の計画策定に向けた伴走支援を行います。

市町村地球温暖化対策実行計画策定支援事業 10,000千円

計画が未策定の市町村を対象に、県主催のワークショップを開催するほか、各市町村にアドバイザーを派遣するなど、市町村の計画策定に向けた伴走支援を行います。

【伴走支援のイメージ】

市町村が直面する課題

①情報・ノウハウ不足

・計画策定の進め方や手法が分からない

②人材不足

・専門知識を持つ職員がいない

・計画策定を主導できる職員がいない

・担当職員の業務量が多く、手が回らない

計画策定に向けた県支援策

国が公表している「計画のひな形」や「算定ツール」の活用

・国が示すこれらのツールを活用することで策定作業の負担を軽減

・基礎調査等の外部委託を不要に

ワークショップ等の実施

・「ひな形」等を活用し、ワークショップやアドバイザー派遣等により計画原案を作成

計画策定に向けた個別サポート

・審議会や庁内会議、パブコメ等の対応をサポート

市町村間の意見交換会・交流会の開催

・共通する課題の解決策や優れた取組を横展開

無理のないスケジュールの設定

・余裕をもったスケジュールとすることで業務負担を平準化し、少ない人員でも対応可能に



概要

担 当 課：環境生活部循環型社会推進課
問い合わせ先：043-223-2634

循環経済への移行に向け、プラスチックの資源循環を図るため、プラスチックのリサイクルに取り組む市町村に対する伴走支援を実施するほか、県庁内で発生するプラスチックごみの排出抑制及び再資源化に向けた実証事業を実施します。

1 市町村への伴走支援 31,100千円

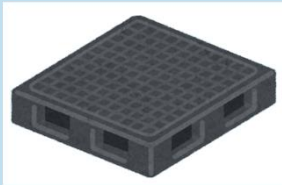
プラスチックの分別収集・再資源化に取り組む市町村に対し、各市町村が抱える課題を把握・整理するとともに、課題解決に向け、状況に応じた具体的な助言・提案を行うなど、分別収集体制の確立を支援します。

[支援内容]

- 分別収集に向けた課題の整理
- 効率的な収集方法等の提案
- 先行自治体の取組・課題の情報提供 など



分別収集



再資源化（物流用パレットなど）



圧縮梱包
（プラスチックのベール化）

2 庁内プラスチック資源のリサイクル実証事業 2,500千円

県庁内で発生するプラスチックごみの排出抑制及び再資源化に向け、分別回収の実施方法やルール等を検討するため、実証事業を実施します。

[実証場所]

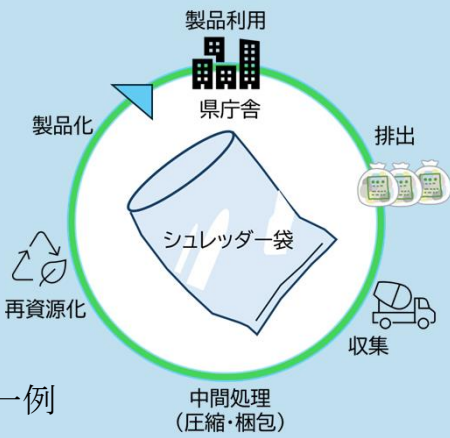
環境生活部フロア（本庁舎3階及び4階）

[実証内容]

- 収集した可燃ごみの組成分析（プラスチックごみの割合等の把握）
- プラスチックごみの収集・再資源化



庁内で排出されるプラスチックごみ一例
（クリアホルダー）



概要

担 当 課：環境生活部自然保護課
問い合わせ先：043-223-2975

野生鳥獣による農業被害・生活被害を防止するため、市町村が実施する有害鳥獣捕獲事業への助成などを行います。令和8年度は生息数の増加に歯止めがかからないキョンについて、助成単価を引き上げ、捕獲の強化を図るとともに、生息域拡大防止のため、柵の設置の有効性等について検証を行います。

【主な事業】

○市町村捕獲事業への補助 313,700千円

被害防止計画に基づき市町村が行う捕獲事業に対して、県単独で助成します。

市町村の有害鳥獣捕獲においては、被害の大きいイノシシが優先して捕獲されている状況にあることから、令和8年度は生息数の増加に歯止めがかからないキョンの補助単価を5,000円から7,000円に引き上げ、捕獲を促進します。

〔補助率〕原則として、市町村事業費の1/2 以内（キョンは定額）

〔助成対象獣〕イノシシ、ニホンジカ、サル、キョン、ハクビシン、アライグマ

（イノシシ）



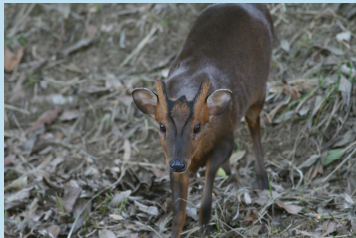
○鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業 250,000千円

捕獲従事者の活動経費を支援するため、市町村に対する県単独の補助金に加え、国の交付金により助成します。

〔助成単価〕対象鳥獣ごとに定めた額

〔助成対象鳥獣〕イノシシ、ニホンジカ、サル、キョン、ハクビシン、アライグマ 等

（キョン）



○野生鳥獣対策調査事業 91,224千円

野生鳥獣対策として、生息状況等の調査をこれまで実施してきましたが、令和8年度はキョンの生息域拡大防止のため、柵の設置の有効性や構造・素材の検証などを行います。

- ・生息状況等調査 81,224千円
- ・柵の設置に係る検証 10,000千円

概要

担 当 課：農林水産部農地・農村振興課
問い合わせ先：043-223-2858

イノシシなど有害獣による農作物被害を防止するため、市町村等で構成する「対策協議会」が実施する防護柵の設置や捕獲機材の購入などについて助成します。また、地域と協働して、農作物被害を低減させるための効果的な対策手法を検証するとともに、被害対策に取り組むための体制構築を支援します。

1 捕獲・防護に係る経費への助成 348,000千円

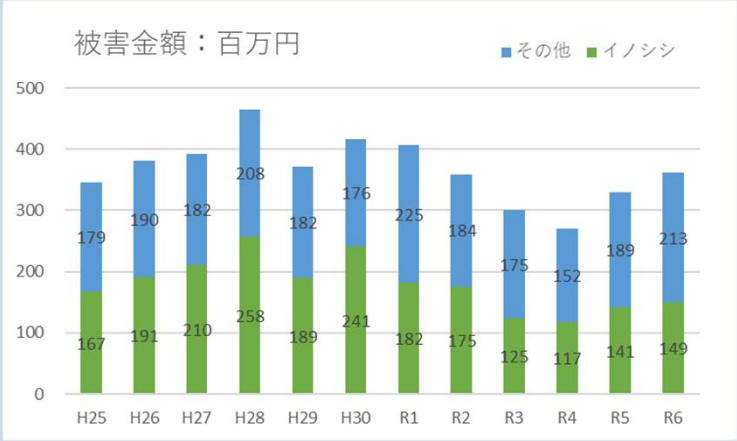
- ソフト事業（捕獲機材等） 90,000千円
[補 助 率] 1/2以内
- ハード事業（防護柵資材等） 258,000千円
[補 助 率] 実施主体自らが柵を設置する場合：定額
実施主体が委託により設置する場合：1/2以内

2 被害対策の効果的な手法の検証及び被害対策の体制構築支援 17,500千円

- 専門家の知見を活用し、農作物被害と被害対策の取組状況を詳細に調査・分析し、被害低減に効果的な対策手法を検証する。併せて、市町村の今後の被害対策のあり方についても話し合いを進めていきます。
- 被害対策の効果的な手法の検証 1,000千円
- 被害対策の体制構築支援 16,500千円

3 広域的な捕獲個体の搬入への助成【新規】 2,600千円

- 食肉利用拡大を図ることを目的に、捕獲者の負担を軽減することで処理加工施設への捕獲個体の搬入が促進されるよう、処理加工施設が行う捕獲個体の広域搬入の取組に対して、経費の一部を助成します。
- [実施主体] イノシシ肉処理加工施設等
- [補助対象] 広域（市外かつ10km超）での個体搬入の取組
- [補 助 率] 定額



〔捕獲機材（箱わな）〕



〔防護柵（金網柵）〕

概要

担 当 課：環境生活部環境政策課
問い合わせ先：043-223-4648

地球温暖化や有害物質による汚染など、環境問題に関する調査・研究を行う環境研究センターについて、老朽化対応及び機能強化のための集約化を図り、建替えに向けた設計等を実施します。

[環境研究センターの現状と課題]

- ・市原及び稲毛の2地区に庁舎が分散：多様化・複雑化する環境問題に対し、各部門の連携した対応に課題
- ・主要建物の多くが築50年以上：耐震性能の不足など

[新センター整備の概要（千葉県環境研究センター施設整備に係る基本計画（R7.3））]

【建設予定地】千葉県農林総合研究センター内（千葉市緑区）

- 【基本理念】① 調査・研究の質と研究員の意欲が向上するとともに、センター内の研究室横断や他機関との連携が進む研究所
② 環境分野の支援・発信・交流の拠点として、人々が集う、県の環境保全のシンボルとなる研究所

【整備スケジュール（予定）】・R8～R10 土壤汚染調査、地盤調査、設計（基本・実施設計、建設予定地の残置建物の解体設計）
・R10～R12 工事 ・R13 供用開始

【概算事業費】約80億円

[令和8年度の経費内訳]

土壤汚染調査等 68,430千円

[債務負担行為の内訳]

- ・新築設計及び残置建物の解体設計 255,000千円
- ・地盤調査 17,000千円



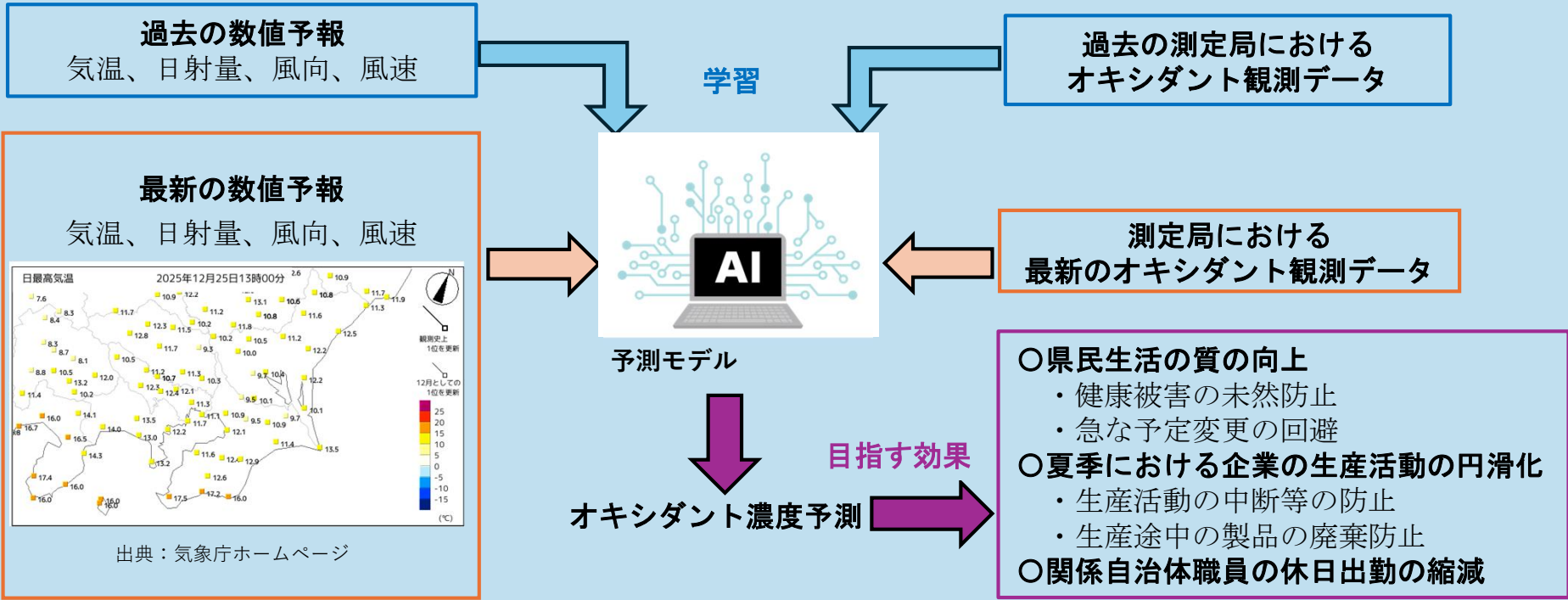
概要

担当課：環境生活部大気保全課
問い合わせ先：043-223-3808

健康被害をもたらす光化学スモッグについて、県民への健康被害の未然防止を図るとともに、企業の生産活動への影響を回避するため、A I を活用して光化学スモッグを予測するシステムを開発します。

[システム概要]

- ・過去に光化学スモッグ注意報が発令された際の各種条件の機械学習により予測モデルを構築
 - ・予測モデルへ気象予測データを入力し、オキシダント（光化学スモッグの原因物質）の濃度予測を行い、注意報発令の能性を予測
- ※ オキシダント：オゾンなどの物質総称
光化学スモッグ：オキシダントが高濃度となると遠くの景色にもやがかかったように見えにくくなる状態のこと（イメージ）



発酵を活用した千葉の魅力発信事業【一部新規】



予算額 83,510千円
(R7 136,103千円)

概要

担 当 課・問い合わせ先：	1 総合企画部政策企画課	0 4 3－2 2 3－2 4 8 9
	2 農林水産部販売輸出戦略課	0 4 3－2 2 3－2 9 5 9
	3 商工労働部観光政策課	0 4 3－2 2 3－2 4 8 6

房総半島の豊かな自然環境や、利根川・江戸川の水運の歴史などを背景として、今なお発展を続けている千葉県の多様な発酵文化・産業を活かし、本県の魅力を県内外に広く発信します。

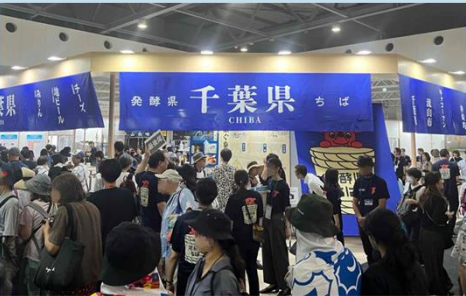
令和8年度は、大阪・関西万博への出展による成果を県産品の販路拡大や県内誘客の促進に繋がられるよう、「発酵県ちば」の取組を進めます。

1 発酵県ちばプロモーション事業【新規】 (政策企画課) 30,000千円

発酵グルメフェスイベントの開催などにより、本県が誇る多彩な発酵の魅力について県内外に広く発信することで、「発酵県ちば」のブランド化を図ります。

【実施内容】

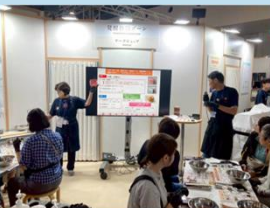
- ①発酵グルメフェスイベントの開催
- ②県内外イベントへのブース出展
- ③発酵を軸とした県内誘客促進に向けた調査



万博千葉県ブース



試食提供
(万博千葉県ブース)



ワークショップ
(万博千葉県ブース)

2 料理を通じた県産農林水産物の魅力発信事業【一部新規】 (販売輸出戦略課) 20,000千円

本県の発酵食品を代表する「醤油」と県産農林水産物を使った料理を通じて千葉県の食材のおいしさを広く発信するため、「ちばの醤油グルメフェア」等でのPRを行います。



黒アヒージョ

3 期間限定アンテナショップにおける発酵食品のPR (観光政策課) 33,510千円

期間限定のアンテナショップを出店し、醤油、酒、チーズなどの発酵食品を含め、千葉県ならではの県産品の魅力を積極的に発信します。



期間限定千葉県アンテナショップ

概要

担当課・問い合わせ先：
総合企画部地域づくり課 043-223-2232
総合企画部報道広報課 043-223-2252

千葉県内各地域の認知度やイメージを高め、ブランディングを推進するため、各種メディア等を活用し、本県の魅力をPRします。また、千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」が令和9年1月に誕生20周年を迎えることから、チーバくんのブランド価値及び認知度の向上を図ります。

【主な事業内容】

1 誌面広告を活用した情報発信 26,200千円

東京メトロ主要駅で配布されるフリーマガジンを活用し、県内各地域の魅力を、その背景にある歴史や文化、暮らしなどのストーリーとともに紹介する記事を、誌面とWEBに掲載し、県内各地の認知拡大とブランディングを推進します。また、令和8年度からは、記事で紹介した魅力をより広く訴求していくため、新たにInstagramによる情報拡散を実施します。



2 チーバくん誕生20周年記念事業【新規】 10,000千円

県立美術館における企画展「大チーバくん展」とも連動した、誕生20周年記念の各種取組やSNSでのプロモーションを実施することなどにより、県内外におけるチーバくんの更なるイメージアップを図ります。



3 メディアリレーション事業 30,000千円

効果的なパブリシティ活動を行い、テレビやインターネット等で千葉県の情報を取り上げてもらう機会を増やすことで「千葉ならではの」の価値を発信し、県内各地の認知拡大とブランディングを推進します。

4 テレビ（在京キー局）による映像情報発信 88,418千円

千葉県が持つさまざまな魅力を支えている方々を紹介する番組を関東近県で放映し、県内各地の認知拡大とブランドイメージの醸成を図ります。

概要

担 当 課：商工労働部観光政策課
問い合わせ先：043-223-2412

千葉県は、関東では貴重な西海岸を有し、海と夕陽と富士山が綺麗に見えるほか、三方を海に囲まれる地形から、「海と夕陽」の様々な表情を楽しむことができます。

千葉ならではの「海と夕陽」の魅力を広く発信し、認知度向上を図るため、令和7年度に実施したフォトコンテストの入賞作品等を活用し、市町村・観光協会や観光事業者等と連携した観光プロモーションを実施します。

[主な事業]

- ・ポスター・プロモーション動画の作成
- ・観光パンフレット・ホームページ・SNS等でのPR
- ・メディアやインフルエンサーによる情報発信

(参考) 令和7年度「ちばの『海と夕陽』フォトコンテスト」

- [応募期間] 令和7年12月1日～令和8年2月1日
[審査・発表] 令和8年2月～3月
[募集部門] ①一般部門
②市町村・観光協会部門
③観光事業者部門



千葉県の主な「海と夕陽」スポット



SUNSET BEACH PARK INAGE(千葉市)



富津公園(富津市)



飯岡刑部岬展望館(旭市)



岡本棧橋(原岡棧橋)(南房総市)

概要

担当課・問い合わせ先			
1・2	農林水産部	生産振興課	043-223-2880
3	農林水産部	販売輸出戦略課	043-223-2959

令和8年は落花生が千葉県に導入されて150年目に当たることから、長い間親しまれてきた落花生の歴史を振り返り今後の発展につなげる記念イベントを開催するとともに、150周年を契機とした魅力発信や消費拡大につなげるためのプロモーション等を実施します。

[事業内容]

1 記念イベントや栽培体験等の実施 2,100千円

国産の約8割を担う千葉県の落花生の価値を再発見し、地元の生産者や文化を理解する記念イベントや収穫体験イベント等を実施します。



150周年記念イベント



落花生栽培体験

2 SNS等を活用した落花生の魅力発信 7,900千円

落花生の歴史やレシピ、加工品など落花生の魅力を県内外に発信します。



ピーナッツペースト ピーナッツオイル

3 落花生等の消費拡大に向けたプロモーション等の実施 10,000千円

ゆで落花生など千葉ならではの食べ方や楽しみ方を提案するプロモーションを展開します。



150周年記念ロゴマーク

※制作協力：千葉県立袖ヶ浦高等学校書道部



ゆで落花生

担 当 課：環境生活部スポーツ・文化局文化振興課
問い合わせ先：043-223-3948

概要

千葉県誕生150周年記念事業で生まれた多様な主体や市町村の広域連携による取組を財産として引き継ぎ、本県ならではの文化芸術として発展させていくため、県と複数の市町村が広域で連携した芸術祭を県内2地域で開催します。

1 実行委員会負担金 67,500千円
芸術祭の開催に伴う費用について事業費の一部を負担します。

2 広報費・運営費 20,500千円（債務負担行為 5,000千円）
同時期に開催される2つの芸術祭を一体的に広報し、県内で複数の芸術祭が開催されることをPRするとともに、開催市町との連絡調整等を行います。

【参考】芸術祭の概要

1 市原市、木更津市及び大多喜町（房総国際芸術祭 アート×ミックス2027） [過去の芸術祭において制作されたアート作品]

[開催時期] 令和9年3月6日（土）～5月30日（日）
[内 容] 土地が持つ特色を生かしたアート作品の制作・展示、
ワークショップ、音楽・ライブパフォーマンス、
「食」に関するプログラム、各種イベント等



作：藤本壮介
2012 いちはらアート×ミックス
飯給駅（市原市）
「Toilet in Nature」



作：豊福亮＋5名
2024 内房総アートフェス
旧里見小学校（市原市）
「里見プラントミュージアム」

概要

担 当 課：環境生活部 スポーツ・文化局 生涯スポーツ振興課
問い合わせ先：043-223-2434

スポーツを通じた健康増進や体力向上の促進と、千葉県が有する様々な魅力を発信するため、7回目の大会となる「ちばアクアラインマラソン2026」を開催します。

【大会概要】

- (1) 開催日時 令和8年11月8日（日）午前9時40分から午後4時まで
- (2) 種目等

種 目	定 員
マラソン (42.195 km)	12,000人
ハーフマラソン (21.0975 km)	両種目合わせて5,000人 ※ 車いすハーフマラソンは、 10人程度を目安とします。
車いすハーフマラソン (21.0975 km)	

- (3) 参加申込
 - ・ 申込み方法
インターネット（先着順） ※本大会から従来の抽選方式より変更
 - ・ 申込期間
令和8年3月中旬以降を予定 ※詳細は2月開催の実行委員会総会で決定
- (4) その他
大会コンセプトの一つである「千葉県の魅力発信」として、大会当日を含む各種イベントの実施を予定しております。
※イベントの実施については、今後、詳細等が決まり次第、大会公式ホームページ等にて、随時発表いたします。



[コースマップ]

概要

担 当 課：環境生活部スポーツ・文化局
生涯スポーツ振興課
問い合わせ先：043-223-2434

全国で最も多くのゴルフ場を有する本県の特性を活用し、子どものうちから生涯スポーツであるゴルフに親しみ、気軽に楽しめる環境づくりを進めるため、県内各地のゴルフ場において大人から子どもまで幅広い世代が参加するファミリー向けゴルフ体験会を開催するとともに、県内競技団体と連携し、小学校で「スナッグゴルフ」体験会を実施します。

1 ファミリー向けゴルフ体験会の実施 6,350千円

初心者がゴルフ場で気軽にゴルフを体験する機会を創出するとともに、県民が家族で楽しくゴルフをする機運を醸成するため、家族向けのゴルフ体験会を県内各地で開催します。

- 〔内容〕プロゴルファーによるマナー説明、基礎レッスン、コースでのプレーなど
- 〔対象〕県内に在住する家族
- 〔会場〕県内のゴルフ場（6カ所程度）



2 小学校での「スナッグゴルフ」体験会の実施 3,150千円

プロゴルファーが小学校を訪問し、「スナッグゴルフ」を使用したゴルフ体験会を実施します。

- 〔内容〕ショットやパターの体験、チーム対抗戦など
- 〔会場〕県内の小学校（5校程度）

スナッグゴルフとは、軽くて短いクラブや、柔らかく大きなボールを使用し、子どもや初心者でも簡単に打つことができる、簡易版ゴルフのこと。



概要

担 当 課：環境生活部スポーツ・文化局競技スポーツ振興課
問い合わせ先：043-223-4109

競技人口の少ないスポーツにおいても競技力の向上を図るため、小学生を対象とした運動能力の測定会により、自分の強みを活かせる競技人口の少ないスポーツがあることを知ってもらうとともに、運動能力の優れた児童に対しては、座学やスポーツ体験のプログラムなどの支援を実施することにより、千葉県から国内外で活躍する選手の輩出を目指します。

- 対 象 県内在住の小学4年生（小4時に25～30名を選抜）
- 対象競技 12競技



ローイング



サッカー



ボクシング



ウエイトリフティング



ハンドボール



フェンシング



ライフル射撃



スポーツクライミング



カヌー



トライアスロン



アイスホッケー



スキー

- 主な内容
- 1 運動能力測定会 6,000千円

スプリント、敏捷性、ジャンプ力、スイングスピード等の項目について測定を行い、能力測定会の結果をフィードバックして、自分の強みを活かせる競技を知ってもらうとともに、運動能力の優れた児童を選抜します。

- 2 能力開発プログラム 2,300千円

選抜された児童に対して、栄養学やメンタルトレーニングなどの「知的能力開発プログラム」、身体動作やバランス・リズム能力などの「身体能力開発プログラム」を提供し、アスリートに共通して必要な技術や知識を学んでもらいます。

- 【参考】今後の展開
- ・小学5年時：日頃触れ合う機会の少ない12競技の体験
 - ・小学6年時：本人の意向を踏まえ適性のある2競技を深める

小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生
運動能力測定会 (選考会)	運動能力測定	
	適性競技体験会① 12競技×1回	適性競技体験会② 2競技×5回
能力開発プログラム①	能力開発プログラム②	能力開発プログラム③